

2024年3月10日

「埋葬の準備」

ヨハネによる福音書 12:1-8

早川 真牧師

「貧しい人々はいつもあなたがたと一緒にいるが、わたしはいつも一緒にいるわけではない。」埋葬の準備をすることができるのは今しかないということをここでイエスは明らかにしておられます。この時マリアは、おそらく主の埋葬の準備をする、と言ったような意図で香油を注いだのではなかったのではないかと思います。ただイエスに対する愛を表したい一心でしたことが、結果的にイエスの埋葬の準備となりました。この後イエスは十字架にかかり、その日は安息日の前日であったので、十分な処置ができないままに墓に納められることとなりました。本来であれば香油を塗って丁重に葬るはずのイエスの体に香油を塗ることができたのは、この時、イエスの足に香油を塗ったマリアだけでした。

マリアのささげた香油は最愛の弟であるラザロを復活させてくださった主への感謝を表すものでありました。そうであるならば私たちの捧げものは、罪と死から解放し、復活の希望を与えてくださった神への感謝を表すものであるはずです。私たちが奉仕する時、最も大切なことは、それが自分のために命を献げてくださった主へのささげものであるかどうかとすることです。その時に私たちは本当に謙遜に、神と人々を喜ばせる奉仕を為すことができます。奉仕をしている自分を誇ることなく、また人の奉仕を非難したりすることなく、皆が主に向かってささげるその心からの奉仕を喜ぶ時に、教会はきっと良い香りでいっぱいになることでしょう。そして、そのように私たちが主に喜ばれようと日々精いっぱいささげていくことが限りあるこの人生における埋葬の準備、また復活の準備となるのではないのでしょうか。